年　　月　　日

　高梁市消防本部予防課予防広報係担当者　様

 主　催　者 　　 　　　　　　　　　　　,

 煙火打揚責任者(点検者） 　 　　　　　　　　,

**煙火の消費にかかる点検報告書**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  花 火 大 会 名 （ 主 催 者 ） |  | 花火業者名（所在地） |  |
|  消　費　日　時 |  　　　　年　　月　　日（　　）　　　時　 ～　　時　 　［時刻は24時間呼称とする］ |
|  消　費　場　所 |  （　　種場所） |
|  許可を受けた 火 薬 類 の 種 類 ・ 数 量 |  　　　　　 打 揚 煙 火 |  　 　スターマイン等裏打ち |  仕掛煙火 |
|  　 号 |  号 |  　号 |  号 |  　 号 |  　号 |  　 号 |  号 |  号 |  　 号 |  　台 |
|  　 個 |  個 |  個 |  個 |  　 個 |  個 |  　 個 |  個 |  個 |  個 |
|  　　　　　　　　　　点　検　内　容 |  　　　　適　合　状　況 |  自主判定 |
|  ①保安距離は適正か。 |  必要距離　　　　　 　　 　ｍ 観衆までの確保距離 　 　ｍ 物件までの確保距離 　　 　ｍ |  適　否 |
|  ②筒設置場所の地盤面が軟弱で発射振動により筒が沈下した 　り、傾くおそれがないか。また、足場はすべりやすかった 　り、傾斜地等無理な姿勢で行うこととなっていないか。 |  発射場所の地盤の状況 　　　　 発射場所は水平か 　　　　　　 筒固定支柱の状況 　　　　　　 |  適　否 |
|  ③湿った荒縄等により、筒１本毎に２か所以上堅固に固定さ 　れているか。 |  筒固定の方法 　　　　　　　　 |  適　否 |
|  ④筒はきれいに清掃され、損傷がなく、紙筒は吸湿等の異常 　はないか。 |  筒の材質　 　 紙製 ・ 鋼製 筒の清掃頻度 　 　 　　回／個 |  適　否 |
|  ⑤煙火置場の位置・構造は適切か。 |  火気からの距離　　　　　　　ｍ 打ち揚げ筒からの距離　 　　ｍ 仕掛煙火からの距離　　　　　ｍ |  適　否 |
|  ⑥船上花火での煙火置場の防護措置は適切か。 |  煙火置場の屋根材 　　　　　　 　　　 壁　材 　　　　　　 |  適　否 |
|  ⑦煙火置場に「火気厳禁」等の表示はされているか。 |  警戒表示　煙火置場・火気厳禁 　　　　　関係者以外立入禁止 |  適　否 |
|  ⑧煙火玉の導火線の吸湿または損傷はないか。 |  煙火玉全数点検したか |  適　否 |
|  ⑨打揚げ薬は規定のとおりであり、量は少なくないか。 |  打揚げ薬を打揚げ玉の大きさ毎に 計量して小袋へ入れているか |  適　否 |
|  ⑩直接点火の場合、畳床等の防護材の設置がなされているか。 |  打揚げ者保護用の防護材 　　　 |  適　否 |
|  ⑪船上花火等遠隔操作が導入しやすいところで、直接点火し ていないか。 |  ｽﾀｰﾏｲﾝの点火方法　　　　　　 仕掛煙火の点火方法　　　　　　 |  適　否 |
|  ⑫煙火収納容器の位置、蓋、覆い等の防護措置は適切か。 |  |  適　否 |
|  ⑬打揚げ規模と従事者の熟練度、人員構成に無理はないか。 |  |  適　否 |
|  ⑭事故が発生した場合の措置が定められ、徹底されており、 消火体制が確立されているか。 |  事故発生時の措置の有無　有・無 消火体制 　 　　　　　　　　 |  適　否 |
|  ⑮強風時の対策はできているか。 |  風速　　ｍとなった時点で中止 (中断　　回・合計時間　　時間) |  適　否 |
|  ⑯燃え残り火の粉による着火のおそれのある範囲の防火対策 は十分か。 |  事前散水による防火措置範囲 半径　　　ｍ範囲 |  適　否 |
|  ⑰黒玉等の回収計画は適切であり、そのとおり実施されてい るか。 |  黒玉の回収計画（許可申請時） 　 月 　日　 時～ 　時 実施状況　 月 　日　 時～ 　時 |  適　否 |
|  ⑱昨年の事故を踏まえ、対策が施され、さらに従事者に対す る保安教育が十分になされているか。 |  昨年の事故対策の有無 有・無 保安教育の実施状況 　 　　　 |  適　否 |
|  ⑲その他法令を遵守しているか。 |  火薬類取締法施行規則56条の４ |  適　否 |